

清風 NAVIGATION

●発行／令和8年8月20日
●発行所／公認会計士清風会事務局
●発行人／高岡 万由美

Vol.82

戦略か 出合いか!?

〈第3回月例会〉前例なきキャリアの切り拓き方

マーケティング的発想で戦略的にキャリアを築いてきた梅澤さん、出会った人との掛け算で予測しない未来を拓いてきた平林さん。お二人とも個性が際立つキャリアの築き方をされています。さて、梅澤さん、平林さんのキャリアから見えてきたものは？

選んだもの、選ばなかったもの

高岡 監査法人退職後のキャリアを教えてください。

梅澤 最初のキャリアは内部監査でした。監査法人の先輩の紹介で外部受託していた時にC・I・A（公認内部監査人）の資格を取り、日本マクドナルドの内部監査室に入社して事業会社の道を歩み始めました。内部監査というジャンルは、事業会社に入る手段として選んだというのが正直なところです。私は経営に関わりたと思っていたので、選んだのが経営、選ばなかったのが会計ということになります。

高岡 事業会社はどのように決めたのですか？

梅澤 マクドナルド、ヤフーなどいろいろな会社の内部監査部門を受けました。社外役員もそうですが、合う、合わないがあるので「うまく貢献できるか」を基準にしています。

高岡 平林さんはいかがですか？

平林 私は監査法人に2年3か月在籍しましたが、もう疲れていまして、体調面でも限界を感じて退職しました。それでとりあえず友人に「時間ができた」と連絡したら、わーっと仕事が降ってきました。

最初に受けたのはベンチャー企業の経理代行、売上が数千万円の赤字会社で、出納までは会社でやるし税理士はいるから、あとはぜんぶ処理せよというミッションでした。業務委託でしたが、会社には私の机が用意され、山積みになった通帳のコピーと書類を自分で考えながら

梅澤真由美氏

公認会計士梅澤真由美事務所代表、
管理会計ラボ株式会社取締役ファウンダー
監査法人トーマツ退所後、日本マクドナルド(株)、ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)にて通算10年、経営財務分野に従事。2016年、管理会計研修に特化した管理会計ラボ(株)を設立し代表に就任。現在は取締役として経営をサポート。(株)メルカリ、ロイヤルホールディングス(株)など上場企業の社外取締役、内閣府の有識者委員など多数歴任。

平林亮子氏

有限会社アール代表、
(株)Lumiere専務取締役

2000年に独立。有限会社アールで起業や中小企業の経営コンサルティングに従事。著書は「決算書を楽しもう」(ダイヤモンド社)、『お金が貯まる5つの習慣』(幻冬舎新書)など60冊を超える。テレビ朝日「モーニングバード」のレギュラーコメンテーターを務めるなどマスコミにも出演。映像コンテンツ制作や楽曲提供なども行い、2017年にはシンガーソングライターとしてエスプロレコースよりCDデビュー。2023年より「Rouge et Noir」というユニットでライブ活動を開始。



処理しました。3年ぐらいの間に売上が数億円、利益も1億円弱ぐらいまでいきました。その間に人事トラブル、苦しい資金繰り、銀行がいかに手のひらを返すかなど様々な経験ができ、それが今の経営コンサルティングに繋がっています。

私の場合、選んだ、選ばなかったというより、続いたものと続かなかったものがあるという感覚です。

何を掛け算に選んだか

高岡 辞める時に自分の掛け算にしようと設計されたものはありますか？

梅澤 2回あります。まず監査法人を辞めた時は「コンシューマービジネスを自分の拠り所にしよう」と決めました。2回目は10年前に独立した時、管理会計に将来性を感じたので、「管理会計を専門にする」と決意して『管理会計ラボ』を立ち上げました。

平林 私は明確な設計はなく、ただ人生の2大目標があった。一つは25歳で結婚、もう一つは20代での商業出版でした。当時よく読んでいた中谷彰宏さんがベストセラーとなった『面接の達人』を書いたのが20代でしたので、私もなんとかして20代で2冊出したいと思っていました。

実際に実現できたので、結果として「会計×出版」に繋がっています。振り返ってみれば、出会ったものが掛け算になっていく道だったと思います。

もう一つの専門性の伸ばし方

高岡 監査以外の専門性をどのように選び、伸ばしていったのですか。

梅澤 軸は2つあって、まず好きかどうか。管理会計は答えがなく、人間臭い社内政治が入ってくるので、それと数字をどうバランスしていくかに惹かれました。もう一つは得意かどうかです。10年前は管理会計やFP&Aの専門



版社を選びました。

家が少なく、ニッチが狙えると感じました。事業会社2社の経験×会計士はレアで刺さりやすい、そんなマーケティング的な計算もして専門を決めました。講演もマーケティング施策として数多くやりましたし、出版もなるべく専門性が高く見える出版社を選びました。

高岡 非常に戦略的ですね。平林さんはいかがですか。

平林 専門性というものは自分の中になく、分野としての専門性も考えたことがないです。出版を始めた頃に「テーマを決めた方がいい」とアドバイスを受けたこともありましたが、なぜ決めなければいけないのか疑問で、気にせず進みました。

梅澤 亮子さんはいろいろなジャンルの本を書いていて、それは一つの才能ですよ。

平林 依頼を受けたものを書いてきた結果です。あまり好きじゃない分野でも依頼が来たのなら書いたらいいよと言ってくれた方がいて、とにかく来るもの拒まずで(笑)。

梅澤 好きじゃなくても書けますか？

平林 好きってそんなに大事ですか？ もちろん嫌いなものを食べると言われたら嫌ですけど、でも嫌なものでも食べればいいです。じゃあ嫌なものは何かと考えてみると、たとえば「しゃべるの好きですか？」と聞かれても、人前でしゃべるのかどんなテーマでしゃべるのか、少人数か大人数かでも全然違う。どうしても嫌なことなんてあまりないように思うのです。

高岡 意外ですね。平林さんは書きたいものを本にされていると思っていました。

平林 最初の1冊目は、1冊分書けることを示すために1冊分の原稿を書いて出版社に持っていきました。書く気があることだけは認めてもらいましたが、内容については「見直さない」と目の前で原稿を捨てられました。その

後、担当編集者と企画を練り直して1冊目が出ました。そこからは基本的に依頼をいただけるようになり、いわゆる自分の企画が通った本は2冊ぐらい。

梅澤 60冊のうちの？

平林 そう。純粹な依頼だけではなく、出版社の方と「そのテーマ面白そう」と盛り上がりつつ話が進み、同じ問題意識の中から出来上がった本もありますが、自分の発案した企画の本は少ないです。

執筆やメディア出演の効果

高岡 梅澤さんもExcelや管理会計の本を出されていますね。

梅澤 私は10冊書いていますが、亮子さんと逆で、自分で書きたいものを書いていきます。すぐに企画が通るわけではなく何年も掛かるものもありますし、いろいろな材料を使って説得しているのが実態です。

私にとって執筆や講演は、管理会計が専門だと知ってもらうための手段にすぎませんが、どれも得意なので楽しんでやっています。出版にはセレンディピティ(偶然の出会い)があつて面白さを感じています。例えば、韓国のほうが売れている本があるのも面白いですし、経営者の方が手に取り声をかけてくださるサプライズも楽しいです。

平林 私も本を出していませんが、ここまでのメディア出演はなかったと思います。本を読んでくれた方からテレビやラジオのお話をいただいたり、講座





を主催してくれる方もいたりして、講義や講演を聞きに来てくれた方と経営コンサルティングの顧問契約を結んだり。音楽活動も、メディアに出始めた頃に文化人タレントとしてスカウトしてくれた芸能プロダクションと契約をしたら、そこからCD制作や楽曲提供のお話が広がって、今ではミュージックバーを経営していたり(笑)。話のタネはどこに転がっているかわからないと自分でもびっくりしています。

社外役員を始めたきっかけ

高岡 社外役員はどういうきっかけでしたか。

梅澤 社外役員は通算5社、10年ほど務めています。現在はメルカリ、ロイヤルホールディングスで、例えばメルカリでは指名委員会等設置会社への移行により、組織的監査を強化する目的で内部監査の経験が評価され引き合いをいただきました。

ロイヤルはマクドナルド繋がりで、外食の知見があるところでお声がけいただいています。私は興味のない分野

には繋がらないので「興味と経験」が数珠繋ぎになっている印象です。会社側も様々な面を見ているので、社外役員経験でなくても何かフックになる経験を持ち、どの会社なら刺さりそうかと意識すると良いのではないかと思います。

平林 私の場合は、登録もしていない人材紹介会社から問い合わせメールが来たんですよ。何で私ですかと聞くと、「40代女性会計士と検索した」と言われました。かなり怪しい話だと思ったのですが、お会いした人材紹介会社の方が人格者のおじいちゃまで、その方が良い会社だと勧めてくださったこともあり就任に至りました。当時41歳で社外役員など考えてもいなかったし、上場企業の経験もない、今だったら株主総会で反対されそうな経歴なので、こんなこともあるんだと驚きました。

高岡 社外役員はどういうところでやりがいを感じますか？

会場からの質問

Q 本を数冊書くと同じようになってきませんか？

梅澤 管理会計の中でも予算管理や投資評価などジャンルで区切る。あとは読み手に合わせる。事業会社でも管理職向け、新入社員向け、会計プロフェSSIONナルも一般事業会社の経理と会計士と税理士は知識の種類やニーズが違っているので、相手に合わせて説明するのは責務だと思っています。

平林 例えば財務分析の本ならば、企業が変われば何冊でも書けますよね。上場企業約3000社を10社ずつ取り上げるとすれば、年間300冊は書ける計算です。ネタが尽きるのは、自分が言いたいことだけで書くこととするからで、視点や表現を工夫すれば、たとえ同じテーマを扱っても内容が被ることなく執筆できると思います。

梅澤 総合格闘技のようなところがワクワクします。最近取締役会に多様な方が入られていて、私は「貢献できているか」を大事にしていますが、「吸収する」部分も大きくて、その相互作用がとても楽しいです。

平林 正解のない議論の中、「ここで意見を言おう」と力が入る感じは他では味わえないですね。最近の取締役会などは本場に活発に議論が行われますので、その場のやり取りに加わることで、会社はこうやって動いていくんだと実感しています。

Q 何か乗り越えなければいけない時の心構えを教えてください。

梅澤 私はビビりなのでリスクを下げるようにしています。社外役員も含め、長い期間コミットする仕事は基本的に引き受けません。あとはいつでも相談できるようなコネクション作りは日頃からしています。それでも判断で迷う時は会計士としての倫理観と自分の直感に委ねて、冷静と情熱の間でバランスを取るようになっています。

平林 私はあまり乗り越えようと思ってないかも。極論すると全てのことが初めてなのですから、「できないかもしれないので、その時は首にしてください、報酬下げてください」という感じで自分にできることをする。うまくいかなかったら「役に立たなくてすみません」と反省するくらいしかできませんし、ある程度割り切るしかないと思っています。



第53期活動報告・月例会

※ 講師の肩書はご講演当時のものです。

第1回 2025年9月25日

ここだけで聞ける！

内部統制と内部監査のツボと勘所

●講師 浅野雅文氏

株式会社Collegia International
代表取締役



公認会計士

●講師 橋本和也氏

フォースタートアップス株式会社
内部監査室長



公認会計士

内部統制、内部監査と言えどこの方！というお二人を講師にお招きし、参加者からの質問に回答いただく形式で研修を行いました。

【内部統制】浅野雅文氏から、全社統制の重要性をはじめとして、形式面にとらわれずに内部統制を有効に構築し、検証することの大切さを伺いました。

【内部監査】橋本和也氏から、会社のステージによって実施内容は異なるものの、リスクベース・アプローチを取り入れることの大切さや、法令やルールへ

の準拠性のみならず、「経営に資する監査」を意識した内部監査を実施していると伺いました。

第2回 2025年10月20日

多様な現場で活きる監査の知見
—元会計検査院長と語らう会—

●講師 森田祐司氏

元会計検査院長



公認会計士

会計検査院とは？検査官や会計検査院長とはどのような役職なのか？

大手監査法人のパートナーを経て、2011年に会計検査院検査官に任命、2019年から2023年まで会計検査院長を務められた森田祐司氏に伺いました。

会計検査院の検査は、国家財政のほか、政府関係機関など国が出資している団体や、国が補助金その他の財政援助を与えている都道府県、市町村、各種法人に及びます。検査の観点やリスクアプローチとの関連などは、監査との違いも共通点も感じることがありました。さらに、会計検査院長としてあたられた国家行事や国内外の要人とのエピソードなど興味深い経験談をお話しいただきました。

第3回 2025年11月17日

「会計×〇〇で世界が広がる」平林亮子さん・梅澤真由美さんに学ぶ「前例なきキャリア」の切り拓き方

詳細は1〜3ページの特集記事をご参照ください。

第4回 2025年12月1日

日本公認会計士協会会長との対話の集い—5つの目標について、南会長に聞く、話を—

●講師 南成人氏

日本公認会計士協会会長



公認会計士

南成人会長には、「今後の会計士業界の展望と公認会計士協会の役割」をテーマに、新執行部の体制や経営方針について、協会が掲げる5つの目標を中心に講演いただきました。特に、「ビジョン」信頼を創り、次世代が輝く社会への実現に向け、監査の信頼性と魅力の向上が重要だと強調されました。

南会長は、ステークホルダーとの信頼関係、若手が将来を描ける監査の姿、監査報酬体系のあり方、人材育成や会計リテラシー向上など、多岐にわたって取り組んでいらっしゃるそう

です。最後は、人との縁を大切に、同じベクトルを向いて決めたことをやり切るといふ、会長としての強い思いを共有いただきました。

懇親会は参加者が南会長と意見を交わす貴重な機会となりました。一人ひとりの意見に耳を傾けてくださる南会長の姿が印象的でした。

第5回 2026年1月30日

スタートアップへの関わり方
〜ガバナンスを中心として〜

●講師 江戸川泰路氏

EDIX Professional Group /
江戸川公認会計士事務所代表



公認会計士

●講師 大杉泉氏

大杉公認会計士事務所所長



公認会計士

スタートアップに関して経験豊富なお二人をお迎えし、参加者の質問に回答いただきました。

江戸川泰路氏には、昨年設立され

理事長を務められている日本スタートアップ監査役等協会（JSSA）での議論を踏まえて、スタートアップ企業のガバナンスにおける典型的な課題やその解決策、成長ステージに応じて求められるガバナンスの違いなどを伺いました。

ベンチャー企業の監査役に関する著書のある大杉泉氏には、自身の監査役としての経験や執筆のこと、さらに、紹介で監査役就任の依頼がくる場合のプロセスや、会社の選び方などを伺いました。

第6回 2026年3月4日

現役会計士が語る「ファンドのバックオフィスを支えるキャリア」会計士が手にする、唯一無二の市場価値

●講師 坂入翔一朗氏

ファンドキー株式会社代表パートナー



公認会計士

●講師 中辻仁氏

ファンドキー株式会社代表パートナー



公認会計士

知っているようで、実はよく知らないファンド。坂入翔一朗氏と中辻仁氏には、ファンドの基本を解説いただいた後、参加者の質問に回答いただきました。

お二人の会社では、VCをはじめとする投資ファンドを対象に、資金集めと投資以外の全ての業務を準備範囲として、バックオフィス業務を担われています。投資先からの資料収集等も含めて行うことから、業務においてはコミュニケーションスキルが重要なのだそうです。

ファンドのCFOは、事業会社に比べてまだ担い手が少ない状況ですが、報酬面や独立性、活躍領域の拡大の観点から、公認会計士のキャリアとして検討に値する分野であり、やりがいがあると教えていただきました。終了後の懇親会でも質問が相次ぎ、大変有意義な時間となりました。

第7回 2026年4月16日

公認会計士が大学で教えることを仕事にする方法

京都MBAの人気教員とTV番組出演会計士が登場！

●講師 千葉郁太郎氏
京都文教大学総合社会学部特任助教



公認会計士

●講師 松本雄大氏
株式会社Tech CEO office
代表取締役社長



公認会計士

大学で教壇に立つことに憧れていても、必要な学歴やスキル、ルートがわからず、夢だと諦めている方もいるかもしれません。今回は、それを「実現」したお二人にご登壇いただきました。

千葉郁太郎氏には、公認会計士のスキルを活かしながら観光学や経済学、地域活性化の視点でアニメの聖地巡礼を教えていることや、人気テレビ番組に出演されたエピソードをお話しいただきました。

松本雄大氏にはコンサルティングやベンチャーサポートでの経験を活かして、京都大学経営管理大学院で新規事業創出論を教え、同院から優秀教育賞に選出されたことなどを伺いました。「教えたい」というパッションと「会計士としての経験」を掛け合わせて教壇に立つお二人から、これまでのエピソード、醍醐味、ユニークな授業内容などを大変興味深く伺いました。



第8回 2026年6月3日
山田美樹先生と語る、政策・経済・社会の最前線
―政治・行政・ビジネスの現場から考える、これからの日本―

●講師 山田美樹氏
衆議院議員／元環境副大臣



政治・行政を身近に学べる機会として、山田美樹衆議院議員に講演いただきました。まず国政を通じて把握されている国と地方を取り巻く税制の問題、そして中東情勢を受けて、経済基盤に関わる資源や物資など日本国内で注視すべき問題を解説いただきました。

また、4月に世界183カ国の国会議員が集まる列国議会同盟(WG)に参加したこと、シリコンバレーの企業訪問やワシントンのトランプ政権下の政府関係者や知日派有識者への訪問を通じて感じられた国際情勢や要人の視点など、報道では知り得ない貴重なお話を数多く伺いました。

最後に参加者からの「公認会計士に期待することは何か」という質問に、「トータルな視点で物事を捉え、多様な知見をもとに意見を共有できる貴重な存在」と回答いただきました。懇親会にも参加いただき、相互の理解と交流を深める時間となりました。

第9回 2026年6月16日
作業の省力化はもう古い！A-EEI
ジェント時代の「管理業務の新標準」

●講師 浦亮介氏
株式会社ゼン バックラック事業部
パートナーアライアンス部
士業の、マネージャー



●パネリスト 中川智哉子氏
中川智哉子公認会計士事務所代表



公認会計士

●パネリスト 森田湧貴氏
株式会社イングリウッド
経理財務部長



公認会計士

「A-EEIの最前線を学べる機会を」ということで、今回はバックラックシリーズを展開する株式会社ゼン様と協力いただき、同社の浦亮介氏に、現在のA-EEIジェントから、一歩進んだ未来像まで伺いました。

これまで企業の管理部門は、A-EEIで作業負担を減らすことをDXとして推進してきましたが、今日ではもう一歩進んで、各社の規程を確認したり、申請承認時の資料を確認したりと、プロセスも含めて自動化できるようになっているそうです。

後半はパネルディスカッションとし、業務でA-EEIジェントを活用する副代表世話人の中川智哉子氏と森田湧貴氏にも加わっていただきました。参加者からの幅広い質問に回答いただき、A-EEIジェントに関する理解がぐっと深まる研修会となりました。

代表世話人会 2026年7月9日

冒頭に、近年ご逝去された第12期代表の手島英男先生、ならびに第6期代表の石原光夫先生を偲び全員で黙祷を捧げました。次いで、第53期の活動状況と次期の予定をご報告し、皆さまからは近況を伺い、充実した時間を過ごしました。



新旧の仲間と、温かな歓談のひとときを共にして

第53期 代表世話人

高岡 万由美

多様性を認め、専門性を磨く仲間が
集う場所としての清風会



Mayumi Takaoka

近年、公認会計士のキャリアは監査法人に残るか独立かだけでなく、組織内、社外役員、大学の教員など多岐にわたっています。公認会計士として嬉しいことではありませんが、どのキャリアを選ぶべきか、そこで役割を果たすにはどうすれば良いのか、戸惑うことも増えたように思います。私はキャリアチェンジの時期に清風会に出会い、先人のお話を聞き、そこに集う仲間と交流できました。このような機会があるこ

とで、経験を積む段階でも自分なりの軸を持つことができて良かったと思います。第53期は代表を務めさせていただくことになりましたので、「ぜひ皆さんも、素敵な機会を一緒に！」という思いを込めて、キャリアを開拓し知見を蓄積された方々に講師としてお越しいただきました。

全9回の月例会を振り返ってみますと、内部統制、ガバナンス、システムDX、政治、行政、教育、会計士協会など、様々な分野で素晴らしいご活躍の方々に講演いただきました。各回のお話は大変新鮮であり、日ごろお会いできないような方々とも質疑応答ができ、参加者の皆様に大きな刺激をいただきました。

この1年は、私にとっても企画・運営を経験し、大変充実した年となりました。運営を支えてくださった皆様をはじめ、ご登壇いただいた講師の皆様、ご参加くださった皆様に改めて感謝いたします。

今後、清風会の運営や月例会に関わりながら、これからの清風会を後ろから支えていければと思います。1年間ありがとうございました。

第54期 代表世話人

橋本 和也

ご縁を共に、次に。



Kazuya Hashimoto

この度、第54期代表世話人に就任いたしました橋本でございます。50年以上続く伝統ある清風会において、このような大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでございます。

私は公認会計士予備校講師を務めたのち、大手監査法人で会計監査やリスクアドバイザリー業務を経験、組織内会計士として数社の内部監査を経て、現在はグロース上場企業内部監査室長として新たな内部

監査の創造と推進による企業価値向上に挑戦しております。

知人のご紹介で月例会に参加したのが清風会との出会いでした。公認会計士を中心に各分野にてご活躍の方々のご講演により良質な情報のインプット、毎回開催される懇親会での会話を通じて横のつながりをつくること。年齢に関係なく、共通である「公認会計士」の更なる可能性を前に進める活動が清風会の魅力であり、伝統ある会の力であると認識しております。

そんな中、お声がけをいただき、53期では副代表世話人として企画から運営まで広く担当をさせていただき、今期は代表世話人として全体を統括いたします。

54期のテーマは、「ご縁を共に、次に。」。新たなご縁が生まれ、公認会計士の新たな可能性が花ひらくきっかけとなる場を皆様と一緒に創造できればと思います。

是非、周りの公認会計士の皆様もお誘い合わせの上、ご参加いただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

第54期

副代表世話人から



Sanae Okawa

大川 紗苗

今期より副代表世話人を拝命いたしました、大川紗苗と申します。

大手監査法人での会計監査業務を経て独立し、現在は税理士法人と会計コンサルティング会社を通じて中小企業の会計財務税務を中心にサポート、ならびに上場企業の社外役員を務めております。

日々の業務や活動の中で、諸先輩方には温かいご指導とご厚情を賜り、公認会計士のネットワークの大切さをひしひしと感じる毎日です。

今期で54期を迎える歴史と伝統ある清風会において、この大切なネットワークをさらに発展させ、業界の活性化や、皆様にとって深い学びと新たな出会いの場づくりができるよう、誠心誠意尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



Yoshihiro Sato

佐藤 喜大

今期より副代表世話人を務めさせていただきます佐藤と申します。

私は監査法人での会計監査業務を経て、現在は事業会社の内部監査業務に従事しております。

清風会は、監査法人、独立開業・起業家、あるいは事業会社など、多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルが垣根を越えて集い、知見を共有し合い、新たな気づきや刺激を得られるプラットフォームです。

これまで以上にダイナミックな変革が進む中、皆様とともに公認会計士の新たな魅力を探索し、その発展と強固なネットワーク作りに貢献してまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



Hayato Setoguchi

世戸 逸人

このたび副代表世話人を拝命いたしました、世戸逸人と申します。

公認会計士試験合格後、AIを活用したバックオフィスDXを専門とする会社・はてなベースを設立し、CRMツール、会計ソフト等のSaaS導入を通じて企業の経理・労務業務の自動化に取り組んでおります。清風会では、DXやAIの実務知見を活かし、会員の皆さまの事業運営のお力添えができればと考えております。

自身も一人の事業家として、起業・独立に伴う課題は身をもって経験してまいりました。同じ志を持つ仲間と学び合える場づくりに貢献してまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



Masayuki Terada

寺田 将之

今期から副代表世話人を拝命した寺田将之です。大手監査法人で12年間、上場会社・IPO監査に従事し、2025年からは中小監査法人のパートナーとして、ファンドやTMK、GKT・TKスキームなど新たな分野の監査に携わっています。

清風会は、若手からベテランまで多くの公認会計士が集い研鑽を積み、強固なネットワークを築く場として重要な役割を果たしてきました。この伝統ある組織の運営に副代表世話人として携わることへの引き締まる思いです。テクノロジーの進化や制度改革で環境が急速に変化する今だからこそ、人と人とのコミュニケーションの重要性が増していると確信しています。会員の皆様と多様な視点で交流し、共に成長できることを楽しみにしております。清風会のさらなる活性化に全力を尽くします。



Chiyako Nakagawa

中川 智哉子

前期に続き、副代表世話人を務めさせていただきます。大卒後9年程、複数の業界業種の事業会社

を経験後に会計の勉強を開始し、監査や会計関連コンサルティングの経験を経て、2025年2月に独立し、現在は主に上場準備会社の常勤監査役と、VCファンドの管理業務に携わっております。

本会は様々なトピックについて学べるのはもちろんのこと、非常にアットホームな雰囲気、特に懇親会で近い距離でしっかりお話を伺えることが魅力だと感じています。

微力ながら、世代を超えた健やかで建設的な輪が広がるお手伝いができましたら大変嬉しく思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



Yuki Morita

森田 湧貴

前期に引き続き、副代表世話人を拝命いたしました。大学院修了後、スタートアップの経理として働きながら試験に合格し、監査法人での経験を経て、現在は事業会社の経理財務部長としてグループ全体の決算統括やM&Aに伴うPMIを主導する傍ら、子会社の監査役も務めております。

清風会は、多様なキャリアを持つ公認会計士が幾世代にもわたり活躍する場であり、同時に、業界全体に影響を及ぼすAI活用などの最新トピックもテーマに上がるなど、世代を問わず幅広い層に開かれた会となっております。引き続き、より多くの若手会計士にも広まっていくよう尽力してまいります。

清風会のご案内

「公認会計士 清風会」は、昭和47年（1972年）に発足した意欲溢れる若手公認会計士の任意団体であり、そのような若手公認会計士のニーズに応えるべく、日々活動を行っています。

現在も多くの方に支えられ、20代後半から50代前半の会員・会友が中心となって活動をしています。独立開業をしている方、会社経営者、組織内会計士、ダブルライセンス保有者など、多彩なバックグラウンドの方が多く在籍していることも清風会の特徴になります。

清風会の主な活動としては、月に一度、講師の方をお招きして「月例会」を行っており、最新の専門知識やノウハウをセミナー形式にて学ぶことができます。また、月例会の後には希望者による懇親会も実施し、会員同士でより深い情報交換を行っています。

清風会は、45歳以下の方を「会員」、46歳以上の方を「会友」とさせていただいており、公認会計士・公認会計士試験合格者の方であればどなたでも参加できます。詳細につきましては、清風会ウェブサイトをご参照ください。また、現在、約1,300名の方々にご参加いただいているFacebookの「公認会計士 清風会グループ」に参加していただければ、随時、最新の情報が配信されますので、こちらも是非ご登録ください。

月例会参加方法と入会申込方法

清風会ウェブサイト

<https://www.seifukai.info>

参加を希望されるイベントページ内の
各フォームからお申込みください



月例会 参加方法

月例会の申込方法は
2通りあります

Facebookグループ

「公認会計士 清風会」

左のメニューで「イベント」から
「参加予定」ボタンをクリック



入会 申込方法

入会を希望される方は、
月例会参加時に
受付にて申し出ください



イベント案内と年会費

月例会のご案内

月例会の開催予定は、EメールやFacebookグループ「公認会計士 清風会」でご案内いたします。また、清風会ウェブサイトにも掲載いたします。

年会費納入のお願い 第54期（2026年7月1日～2027年6月30日）

清風会は会員・会友の皆様の会費で運営されております。会員・会友の皆様におかれましては、年会費の納入をお願い申し上げます。

【年会費】

- 公認会計士 10,000円
- 会計士補 2,000円
- 公認会計士試験合格者 2,000円

【振込先】

りそな銀行 渋谷支店（普）3173717
 名義 コウニンカイケイシ セイフウカイ
 ※お振込時には、振込人名の頭にCPE登録番号をご記入ください。
 (例) 3012345 セイフウタロウ

個人情報の管理について

いただいた個人情報については、清風会が責任をもって管理いたします。清風会の運営、月例会のご案内、CPD登録など、必要な範囲内で利用させていただきます。なお、個人情報の開示・訂正・削除及び清風会からのお知らせがご不要な場合は、恐れ入りますが下記までご連絡ください。

個人情報についての問い合わせ先

〈公認会計士清風会事務局〉

E-mail : seifukai.member@gmail.com